

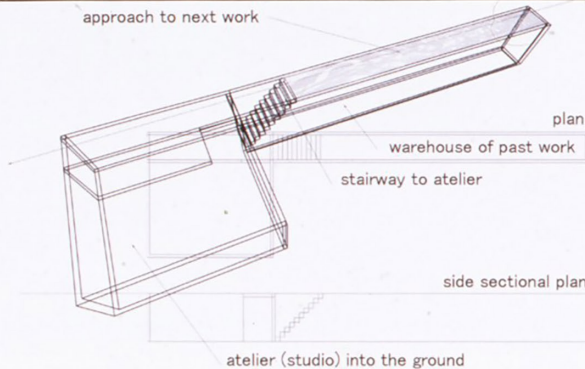


story

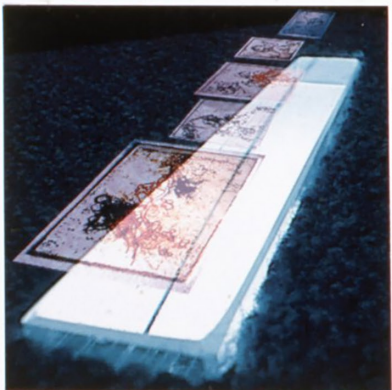
アトリエへのアプローチ(ガラスの小径)は「過去の作品」の上を歩くことになる。アーティストの往復の度に、薄い硝子の層は割れ、細かく碎かれ、次第にすりガラスのようになり、最後には過去の作品は完全に見えなくなってしまう。アーティストはガラス小径の上で次第に変化していく「過去の作品」の分解のスピードを視覚的に体感していく。

たくさんのアトリエの環境の中で。
「artists in residence」

water +



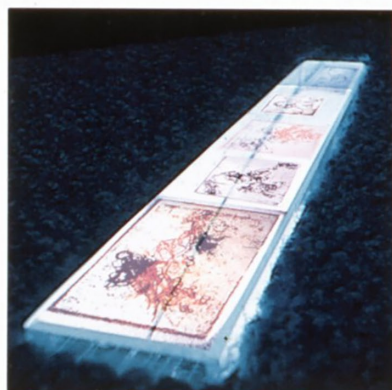
分解する「過去の作品」の経過



1 sandwich with thin glass
ガラスの薄い層と共に挟み込む。



2 trample the past works
過去の作品を踏み殺す。



3 crack+break the past works
ひび割れていく作品。



4 become frosted glass
次第に曇っていくガラス。



5 vanish+disappear the past works
見えなくなった過去の作品。

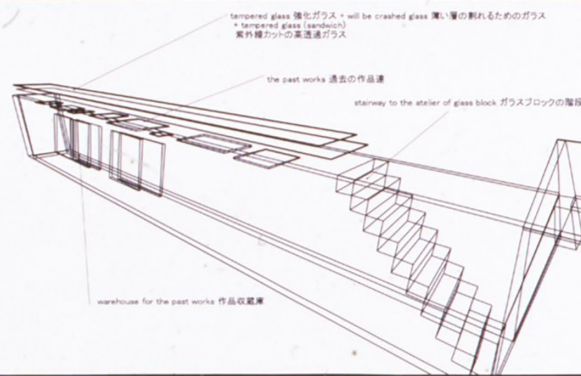


case of location 1

concept

ガラスの「割れやすい・傷つきやすい」特性を逆に一方方向性の機式的な記憶現象として積極的に提案使用した。「壊れること・割れること・不透明化すること」は必ずしもネガティブなイメージだけではなく新しい意識への切り替えに繋がる事とも理解したい。

割れるためのガラス薄皮膜
+紫外線カット・高透過ガラスのサンドイッチ構造



case of location 2